

最優秀賞（国土交通大臣賞）

△作文（中学生）の部▽

愛知県犬山市立犬山中学校 三年 三輪 育弓

『土砂災害について考える』

「土砂災害」と聞いて、少し内容は違うかもしれませんが、私が真っ先に思い出すことは、小学生の時に家族で行った北海道旅行のことです。洞爺湖の周辺で自然の美しさを楽しむ為に出かけて行ったのですが、自然の美しさとともに、自然の恐ろしさについても学ぶことができたのです。

そう感じる事ができた場所は、有珠山ふもとにある洞爺湖ビジターセンターでした。

ここには有珠山が噴火した際の映像や実際に被害を受けた当時の自動車等の展示物がありました。噴火にともない、地盤の変化や土砂が流れたりする現象が発生して町全体に影響があったようです。

初めは火山の噴火の記録展示だけだと思っていました。この近くにある火口周辺までいける散策路を歩いたことで、私の記憶の中でより印象に残る場所となりました。

そこは、当時の被害の状態がそのまま残っていました。国道であったまっすぐの道がS字状になったままだった。土砂が流れてきて電信柱の上の方まで土の中に埋もれてしまっていた。取り残されたような車両もあり、その周辺はその時も湯気が地面から少しずつ出ている。

まるで、さきほどの展示映像の世界に、そのまま入ってしまった感覚で、背筋が寒くなった記憶が今でもあります。

私自身が肌で感じたことはこれくらいですが、最近よくテレビで土砂災害の映像を目にします。特に何度も大雨が間隔を開けずに降りそそぎ、地盤が緩み土砂崩れ等が起きたりし、非常に大きな災害になるケースが多く見受けられます。それにより悲しいニュースが流れてきたりすると、とても心が痛みます。

一瞬にしていつもの生活が奪われてしまう状況になってしまうことは、想像するだけで言葉も出なくなってしまう。

これらの土砂災害に関しては、遠い世界の話ではなく、私の身近でもおきる災害だと思っており、特に気になってしまいます。

なぜそう思うかという点、以前町内の回覧板で私の住んでいる市の防災マップが回ってきましたが、それを見てからでした。

この防災マップは、「市指定の避難所」や「避難の際に目標となる建物」等が記載してある避難に関する地図でした。それとともに危険な箇所を表示として、「土砂災害発生時の恐れがある箇所（土砂災害警戒区域・特別警戒区域）」の表示もされていました。

ここで、とても衝撃を受けました。それは、私の家のすぐ近くに「土砂災害発生時の恐れがある箇所」の中の「がけ崩れ」の可能性がある場所の表示がされていたからです。

また、私が毎日通っている通学路でも、数ヶ所同じような「がけ崩れ」の可能性のある箇所としての設定がされていました。

毎日私が過ごしている場所が、危険を含んだところであったと分かり、ニュースでの内容が現実のものとなってきた、怖さを感じました。あの旅行での映像と実際の災害場所保存の対比を自分自身の生活内で感じるようなものです。

がけ崩れの可能性があるのです、「集中的な大雨が降らないで欲しい」、「地震が起きたりしないで欲しい」と願うばかりです。

しかし、集中的な大雨や地震等は、私達では何とも防ぐことはできません。

その時がもしも来たらどうしよう・・・

また、あの旅行のことが思い出されました。

2000年に発生した有珠山の噴火の際ですが、建物や町中の物に対しては大きな被害をもたらしたようですが、人に関しては大きな被害がなかったと言われていたような気がしました。インターネットで調べてみましたが、確かにそうであったようです。

そこに書かれていたのは、あの場所に関係する方はこの自然災害が発生する可能性と一緒に生活していると認識しており、「予知」と「予想される災害の洗出し」、そして「発生に対する意識と行動」と「教育」を日頃から重要視され、実際に対応された結果、迅速な行動が取れ、人の被害が少なかったようです。

ただ怖いと思う気持ちだけをもつのではなく、発生しそうな状況かどうかの予測と、もしも発生した場合にどう逃げるか等の行動を、災害が発生する前に考えておくことが重要であるということを過去の事例から教えられた気がします。

日頃から、自然災害が発生したことに備えておくことが重要であり、それはただ『物』を準備するだけではなく、『考え』も整理し、準備しておくことが、改めて大切なことと思えてきました。

私もこれからのことを事前に考えておけるようになりたいと思います。